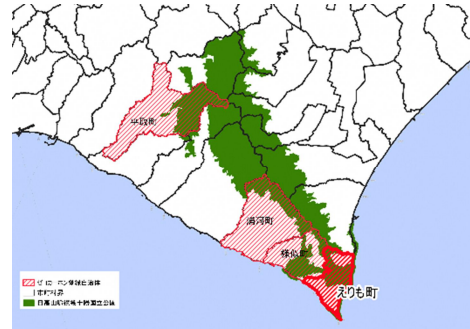


# ゼロカーボンパークに登録されました！

## 【えりも町】

えりも町では、令和6年9月にゼロカーボンシティを表明し、地域での脱炭素の取り組みを推進してきました。この度、日高山脈襟裳十勝国立公園誕生から2周年を迎える令和8年6月25日にえりも町の日高山脈襟裳十勝国立公園エリアがえりも町を含む管内4町（平取町、浦河町、様似町、えりも町）と同時にゼロカーボンパーク※<sup>1</sup>として登録されました。



えりも町は、北海道日高地方の南端に位置し、厳しい自然環境は豊かな漁場と景観を創り、「漁業と観光のまち」として発展してきました。太平洋に突き出た「襟裳岬」は風極の地と呼ばれる日本屈指の強風地帯であり、またハート型の「豊似湖」、断崖絶壁の海岸が続く「黄金道路」など多くの景勝地を有しており、年間30万人以上の観光客が訪れています。

このえりも町の自然環境を守りそして持続的に利活用するために、これまでも森林資源の再生に取り組んできました。また、えりも町の自然環境や文化・歴史の魅力を伝えるため、さまざま自然体験プログラムも企画・実施しています。さらにえりも町の大きな特色である藻場について、育成管理を行いつつ、ブルーカーボン※<sup>2</sup>としてJブルーカーボンクレジット®※<sup>3</sup>の認証を受けています。

これら取り組みを通じて、国立公園エリアでの脱炭素とサステナビリティに向けた取り組みを推進します。

※<sup>1</sup> 国立公園において、先行して脱炭素化し、脱プラや食材の地産地消、エコツーリズムなど持続可能（サステナブル）な観光地作りに取り組むエリアを、環境省が「ゼロカーボンパーク」として登録する制度。

※<sup>2</sup> 沿岸・海洋生態系が光合成により二酸化炭素を取り込み、その後、海底や深海に蓄積される炭素のこと。

※<sup>3</sup> ジャパンブルーエコノミー技術研究組合が、独立した第三者委員会による審議を経て、認証・発行し、その発行後も引き続き管理している独自のカーボン・クレジット。海草藻場・海藻藻場等が吸収する二酸化炭素等を対象とし、長期にわたって沿岸域・海洋に貯留され、大気中から除去されるべき二酸化炭素の量を、科学的合理的に評価・算定し、これを認証・発行される。